

## ◇現代社会と青年◇

## 若者の『愛国心』の育て方

株式会社キャリアコンサルティング  
代表取締役社長

むろだて いさお  
室館 勲



いつからか「個人主義」が日本、そして世界の国々で蔓延してきたように思います。こうして社会に貢献しようとする人が少なくなることは、各国にとって望ましいことではありません。公のために働くことがどれだけ大切か、その価値観をいかにして一人でも多くの若者に教えるかが課題です。

弊社、キャリアコンサルティングに通う若者の多くは「社会貢献したい」「世の中の役に立ちたい」という言葉が多く出てきます。我々は「愛国心」という言葉はほとんど使いませんが、彼らは確実に「愛国心」を持っているのです。

若者が愛国心を持つためには二つのポイントがあります。一つめは日本のことを学ぶ中で、祖国への愛着が湧くことです。過去、いくつもの困難を乗り越えて今の日本があります。初代神武天皇が即位したのは紀元前六六〇年とされ、二千六百年以上続いている世界ダントツの歴史の長い国です。ただ、世界の自然災害の約一割

が日本で起きており、日本は地震、津波、台風、豪雨などを乗り越えてきました。十三世紀の元寇や十六世紀の白人による武力制圧を退け、太平洋戦争（大東亜戦争）の敗戦などを経てもなお、たくましく生き残ってきました。そんな先輩方が命がけて国を守ってきた歴史を学ぶうちに、祖国に対して愛着が湧くようになります。

また、私は若者たちと共に「皇居勤労奉仕」にも行きます。過去十八回参加し、延べ数百人の若者と皇居のお掃除をしました。勤労奉仕では天皇皇后両陛下からご会釈を賜ることもございます。日本国民の幸せを常に祈ってくださる両陛下に對面することで、若者のほぼ全員が「日本人でよかった」と思うそうです。

二つめは、若者がイメージする「成功者」のさらに上があることを知ることです。若者がイメージする成功者は、芸能人、スポーツ選手、経営者、お金持ちなどです。ただ、現代の便利さや豊かさ、平和や安全は、先人たちの弛まぬ努力と、今を生きる多くの方の働きや努力によって支えられています。そうした自分のためではなく、公のために人生を尽くした偉人や先人たちのことを学び、自分と比較することで新たな気づきがあります。次第に若者たちは、損得勘定や名声、物欲などではなく「公のために」と尽くした先人の背中を目指しはじめます。

「公のために働くことはかっこいい」と思える「愛国心」のある若者を一人でも多く育成し、私も日本のために貢献していきたいと思えます。